

今週のことば「**変人イエス**」

《聖書》マルコによる福音書 3:20-35

マルコによる福音書の主張

1963年発布された第2バチカン公
会議の『典礼憲章』で、「典礼において、
神はその民に語り、キリストは今も福音
を告げている」(33)ので、「祭儀におけ
る聖書の朗読を、いっそう豊富で、変化
に富み、また、より適切なものに改訂す
ること」(35)が勧められました。

そこで、主日のミサの聖書朗読箇所の
配分は3年周期になりました。今年B
年にあたり、福音はマルコが朗読されて
いますが、四旬節と復活節のため一時中
断していました。今日の聖書の箇所を理
解するためには、どうしても始めから読
んでみる必要があります。マルコによる
福音では、マタイとカルカのように、イ
エスの教えをあまり伝えていません。む
しろ、イエスの行ないを簡単に述べてい
ます。マルコではイエスそのものが福音
なのです。

イエスの行動を見ていると、当時の社
会の中で罪人とみなされ、神から見離さ
れた人として、みんなからのけものにさ
れている人々のところに行き、「あなた
がたこそ神に招かれた人々だ」と言っ
て回ります。また、「安息日は、人のた
めに定められた」と主張し、大胆に行動
します。

変人イエス

イエスの言葉と行ないは、当時の人々
にとって、常識外れのことでした。身内
の人々にしてみれば、自分たちの身内か
ら、変人が出てもらっては色々困った
ことになるかと考えたに違いありません。
このことは、現代でもよくあることだと
思います。しかし、イエスは私たちに呼
び掛けています。たとえ、身内の人々か
ら、おまえは常識外れのことをしている
と非難されても、神のみ心を行なうよう
にと求めています。

1981年に発表された京都教区ビジ
ョンでは、「私たちは、この社会のあり
方に迎合するのではなく、社会の中、人
々の中にある福音的なものを、キリスト
のメッセージ、みことばの種として受け
入れ、それに協力すること、その反面、
社会の中にある非人間的なもの、福音の
精神に反するものに対しては、はっきり
声を上げ、賢明にこれを正すことが必要
であると言えるでしょう」とあります。

現代社会の中で、福音の精神にしたが
って発言し行動すれば、給料が査定によ
って減らされたり、職を失うことがある
かもしれません。また、近所の人々から
白い目でみられるかもしれません。しか
し、イエスは私たちに同じように行動
するよう求めているのです。

年間第10主日B年(滝野)